

- 1)増田良帆, 山中康裕, 2007: 隔離 CO<sub>2</sub> は西部北太平洋にどのように広がるか,海洋理工学会平成 19 年度春季大会シンポジウム論文集.
- 2)森正人・渡部雅浩・小山博司, 2007: 2005 年 12 月の「北極振動」の励起と予測可能性, 気象研究ノート.
- 3)猪上淳, 豊田威信, 2007: 海氷域の熱フラックスの観測, 気象研究ノート、Vol.214, 93-106.
- 4)橋岡豪人, 山中康裕, 2007: 地球温暖化に伴う生態系変動の数値モデルによる将来予測, 月刊海洋, 39, 291-297.
- 5)水田 元太, 2007: 理想化された数値実験に見られるジェットに沿った渦層厚フラックスと「流軸移動モデル」の関係,九州大学応用力学研究所報, 133, 91-98.
- 6)吉江直樹, 山中康裕, 橋岡豪人, 藤井賢彦, 2007: 生態系モデル"eNEMURO"の開発と時系列観測研究への応用, 月刊海洋, 39, 118-126.
- 7)渡辺力, 2007: 森林と気候のかかわり, 細氷, 53, 44-49.
- 8)長幸平, 福島繁樹, 豊田威信, 若林裕之, 2007: PALSAR による海氷観測への期待, 写真測量とリモートセンシング、Vol.46、 No.3、 11-15.
- 9)川口悠介、池田元美, 2007: 海氷の数値予測とその応用 低温科学.
- 10)中村知裕, 三寺史夫, 2007: 環オホーツク圏領域気候モデル構築に向けて,低温科学,第 65 卷,123-130.
- 11)三寺史夫,中村知裕, 2007: オホーツク海および北太平洋西部亜寒帯循環とそのモデリング,低温科学.
- 12)阿部彩子, 山中康裕, 2007: 古気候モデリング, 天気(日本気象学会誌), 54(12), 995-998.
- 13)谷本陽一, 2007: 気象・海洋データに対する多変量解析の適用,天気, 54(10), 881-884.
- 14)谷本陽一, 野中正見, 2007: 中高緯度域の大気海洋相互作用, 天気, 54(6), 525-528.
- 15)桑形恒男, 渡辺力, 三枝信子,2007: 大気と陸域生態系の相互作用ー水と二酸化炭素の交換過程に着目してー,天気, 54, 203-206.
- 16)藤原正智, 山崎孝治, 2007: 成層圏対流圏結合,天気, 54, 597-600.
- 17)藤吉康志, 2007: 雲物理から雲科学へ, 天気、 54, 207-210.
- 18)北海道大学大学院環境科学院, 編 (鈴木光次, 露崎史朗, 豊田和弘, 長谷部文雄, 東正剛, 廣川淳, 藤原正智) 2007: オゾン層破壊の科学, 408 pp., 北海道大学出版会.
- 19) 北海道大学大学院環境科学院, 編 (池田元美, 入野智久, 岸道郎, 岸玲子, 鈴木光次, 玉城英彦, 津田敦, 露崎史朗, 松村寛一郎, 宮本融, 山崎孝治, 山中康裕, 山本正伸, 渡部雅浩, 渡辺豊, Greve, Ralf G.) 2007: 地球温暖化の科学, 246 pp., 北海道大学出版会.